

|                           |  |
|---------------------------|--|
| 施策名                       | 6 地域福祉                                   |
| R9年度末にめざす状態<br>(施策目標) 【P】 | 困難に寄り添う支援ができる、誰にでも居場所と活躍の場がある地域づくりが進んでいる |
| 進捗度                       | C  |

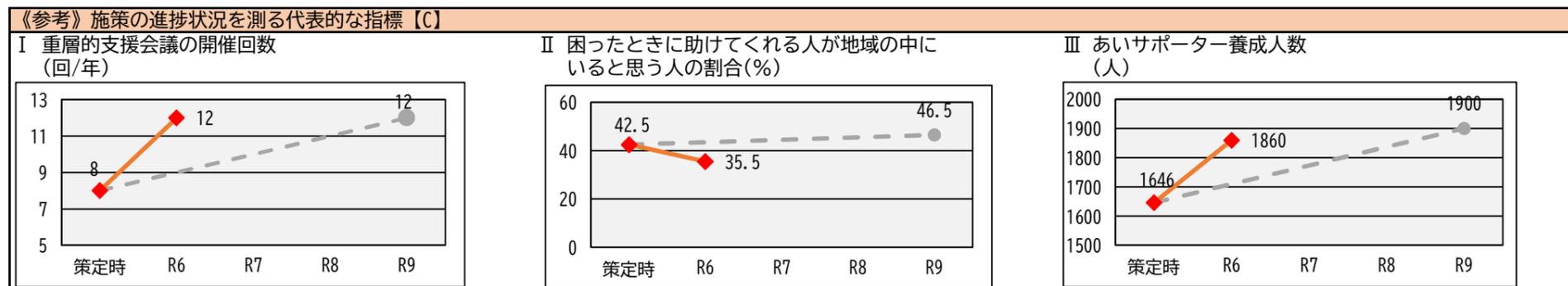
| 総合計画審議会からの施策目標の実現に向けた講評等 |
|--------------------------|
|                          |

【進捗度】 A：4年後にめざす状態をすでに実現している、B：4年後にめざす状態の実現に向けて大変順調に進んでいる、C：4年後にめざす状態の実現に向けて概ね順調に進んでいる、D：4年後にめざす状態の実現には努力が必要である、E：4年後にめざす状態の実現には相当努力が必要である

| (1)寄り添った支援体制の構築・拡充   |  |  |
|--|--|--|
| 施策目標の実現に向けて得られた成果【C】   | 施策目標の実現に効果のあった取組【D】  | 取組による効果の内容とその根拠【D】                                   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>支援の「はざま」となっている方やひきこもり状態にある方やその家族に対して、民間の団体や支援者と共に、必要に応じた支援を提供しつなぐり続けることで、対象者の社会参加が拡大している。</li> <li>支援機関や支援者同士の連携を図ることで、対象者に寄り添った支援を行うことができた。</li> </ul> | No.1 重層的支援体制整備事業（かさねるいこま）  | 重層的支援会議の開催（12回/年）により、多機関で対象者の現状把握や情報共有、支援プランの検討を行った。 |
|  | No.2 ひきこもり支援事業   | いばしょステーションGIFTの運営により、ひきこもり状態にある方への居場所を提供した。          |
| 施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】  | 施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>重層的支援体制整備事業においては、地域の困りごとを吸い上げ、専門職や必要な機関もしくは行政につなぐ仕組みづくりが不十分。</li> <li>ひきこもり支援事業においては、支援機関へつながるきっかけとなる活動や多様なイベントの実施が十分に行えていない。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>重層的支援体制整備事業においては、地域の困りごとを吸い上げ、専門職や必要な機関もしくは行政につなぐ仕組みづくりの強化を行うとともに、地域と顔の見える関係性を作り、信頼関係を構築し、課題を抱える当事者が地域とつながりを持って社会へ参加できるようサポートする参加支援事業の拡充を行う。</li> <li>ひきこもり支援事業においては、居場所での活動やイベントを通して、社会参加への接点を拡充する。</li> </ul> |  |

| (2)地域における支え合い・社会参加の促進   |   |  |
|---|---|--|
| 施策目標の実現に向けて得られた成果【C】  | 施策目標の実現に効果のあった取組【D】   | 取組による効果の内容とその根拠【D】                               |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>第6回地域共生社会推進全国サミットinいこまを開催し、基調講演、パネルディスカッション等を通じて、「支える側」「支えられる側」という関係や、分野を超えて多様な人がつながり支え合う「地域共生社会」について理解を深め、「地域共生社会」の実現に向けた実践の普及を進めた。</li> <li>高齢者の生きがいづくりや社会参加を促進することにより、地域で支え合う意識を醸成し、高齢者の安心・安全が確保できる仕組みを構築することができた。</li> <li>老人クラブやシルバー人材センターの支援によって、間接的に活動の場の提供につながった。</li> </ul> | No.3 第6回地域共生社会推進全国サミットinいこまの開催  | アンケート結果満足度 93%                                   |
|   | No.5 生きがいづくりと社会参加の促進  | 交通費等助成事業等を実施することにより、外出の機会を創出し、生きがいづくり、社会参加を促進した。 |
|   | No.7 民生委員協力員制度  | 2名委嘱し、民生・児童委員の活動に協力いただき、地域の見守り体制が強化された。          |
| 施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】   | 施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】   |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>サミットの開催により地域共生社会の実現に向け市民、事業者、専門職等と地域共生についての理解は深められたが、実現に向けた具体的な実践の普及にまでは至っていない。</li> <li>ひとり暮らし高齢者の増加や地域課題の複雑化・複合化などに伴い、民生委員の役割、重要度が增大することで、負担増加やなり手不足の課題が生じている。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>サミット実行委員会は令和7年度以降「孤独・孤立対策連携プラットフォーム」として活動を継続し、重層的支援体制整備事業と連携して、孤独・孤立対策や地域共生社会の実現に向けた認識共有等を担う。また、プラットフォームの下に「参加支援分科会」を設置し、孤独・孤立の悩みを抱えている人などの社会参加を支援する具体的な取組を進める。</li> <li>高齢者の生きがいづくりや社会参加を促進させるための施策である交通費等助成事業について、市民意識アンケート調査やパブリックコメント等を実施したうえで、あり方を検討する。</li> <li>民生委員活動の補佐・協力をする民生委員協力員制度の活用を促進し、負担軽減や担い手不足の解消を図る。</li> </ul> |  |

| (3)安心して暮らせる環境づくり   |  |  |
|--|--|--|
| 施策目標の実現に向けて得られた成果【C】   | 施策目標の実現に効果のあった取組【D】  | 取組による効果の内容とその根拠【D】                         |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>生活困窮子育て世帯のうちの希望世帯に対し、企業・市民から寄付等で寄せられた食料品や文房具などの物品を定期的に届けることにより、利用世帯の経済的負担の軽減に寄与した。</li> <li>自立相談支援事業、家計改善支援事業、就労準備支援事業の委託先を生駒市社協に一本化するとともに、LINE登録により来所前に相談を受けられるようにしたことで、生活困窮者の支援が円滑に行えるようになり、相談件数の増加につながった。</li> </ul> | No.8 生活困窮子育て世帯への食料品等の配付  | 生活困窮子育て世帯とつながることで、必要時に迅速に支援することができるように努めた。 |
|  | No.9 生活困窮者の自立支援  | 自立相談支援事業 164件、家計改善支援事業 15人、就労準備支援事業 19人    |
| 施策目標の実現に向けて解決すべき課題【C】  | 施策目標の実現に向けた今後の取組の方向性【A】  |  |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>生活困窮子育て世帯への食料品等の配付については、寄付食料品等を安定的に確保できていない。また、利用世帯が少ないことや利用者が固定化されやすい状況にある。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>作業場所、人員、配布方法、周知方法などを見直し、より効果的に広報する等、利用世帯の増加を図る。</li> <li>生駒市社会福祉協議会や企業等との連携を図り、生活困窮世帯に対して必要な食料品等を安定的に届ける仕組みを構築するとともに、配布の際に世帯の見守り活動を併せて行う。</li> <li>生活困窮者の自立支援においては、令和6年度の取組を継続する中で新たな課題等の把握に努める。</li> </ul> |  |



| 《参考》めざす状態に対する市民実感度           |          |
|------------------------------|----------|
| 「そう思う」+「どちらかというと思う」と回答した人の割合 |          |
| 【R6.8月】                      | (参考) 前回値 |
| 23.6%                        | -        |